

隣にいる仲間を想う

在日外国人と日本人は

国籍・民族を超えていけるか

第19回 林慶一

●それぞれのコヒャン（故郷）日本が故郷の朝鮮人の続き

共有リビングで飲み会が始まることもしばしばありました。切り詰めた生活をしている学生たちは酒を飲むとき、居酒屋より安上がりな「家飲み」をすることが結構あり、飲む酒も値段の高いビールより安く手取り早く酔える焼酎やマッコリ（どぶろく）を飲むことが多かったのです。その日はたまたま懐具合がよかった俞民哲（ユ・ミンチョル）という住人がマッコリと何種類かのつまみを買ってきたので、みんなで飲む、ということになりました。学生たちは飲みながらいろんな話をします。やはり、異性に関する話が多いのですが、政治の話や人生哲学の話、将来の夢や悩みごとなど、日本の若者と変わらない話題です。楽し

く飲みながら盛り上がり過ぎていたところ、誰からともなく「みんなコヒャン（故郷）はどこなの？」という話になり、それぞれが、コヒャンはどこで実家は何かをやっていて…みたいな話が始まりました。大学周辺のアパートに住む学生たちは地方出身者がほとんどで、このアパートの住人もみんな地方出身者でした。ヨンスは、おれのコヒャンは一体どこだろう、と考えました。ヨンスが持っている日本政府発行の外国人登録証の本籍欄には「韓国慶尚北道安東郡（現在は安東市）」となっていていますが、ヨンスはまだ訪ねたこととはなく「郡」というからは結構な田舎なのだろうと、思っていて、そこが自分のいわゆるコヒャンなんだろう、と考えていました。するとヨンスが在日であることを知っているヒョンジュが「ヨンスのコヒャンは日本だろ

う？」と笑いながら言ったので、ヨンスも、そうだね、と言ってつられて笑ってしまいました、その話題のオチみたいな感じになり、みんなが笑い合ったあと他の話題へと移っていきました。

その夜、ヨンスは考えました。コヒャンか…今まで自分のコヒャンはハラボジ（祖父）が暮らしていた慶尚北道安東だと思っていたが、ヒョンジュから、ヨンスのコヒャンは日本だ、と言われ、妙に納得してしまった…日本がコヒャンって…そうなのか、もしかして、日本がコヒャンだ、って言うてもいいのではないか、オレは朝鮮人ではあるけれども、日本で生まれ育っているから、考え方も生活の感覚も日本人とほぼ同じだ、かつて無敵の朝鮮人になろうと必死の努力をし、悔しい思いもたくさんしたけれど、日本が故郷の朝鮮人だということも素直に言ってもいいのではないかと思ったり、今までモヤモヤとしていたものが急に晴れたような感じになりました。

次回へ続く…

格差のない

持続可能な

社会の実現を



■立憲民主党参議院比例第13総支部長
第25回参議院議員選挙・自治労組織内候補予定者

岸 まきこ

プロフィール 1976年 北海道岩手県市(旧栗沢町)生まれ / 1994年旧栗沢町役場入職(栗沢町長市)。同時に自治労組合員に。2004年 自治労北海道支部知地方本部女性部長。2008年 所属部長 / 2013年 自治労中央本部支部長。2015年 所属支部長 / 2017年 自治労特別中央執行委員(副総対策担当) / 2018年 立憲民主地参議院比例第13総支部長に就任。

●好きな言葉「ゆるぎ・本気・徹底」(中略)の先生からいただいた言葉です。

◎自治労は第90回定期大会で「岸まきこ」を第25回参議院議員選挙の自治労組織内候補予定者として擁立することを決定しています。

今後の中央委員会を

行う上での日程について

先日の支部中央委員会で、金書記長から今後の支部執行委員会及び支部中央委員会の会議日程が提起をされ、6月7日(金) 支部執行委員会、1週間後の14日(金)に支部中央委員会となります。今後は第1週目の金曜日に支部執行委員会を開催し、第2週目の金曜日に中央委員会を開催していく。

各分会の支部執行委員は支部のレジユメを見て、1週間後の支部中央委員会までに職場集会を分会と共に行い、下部討議を行っていく。こうした取り組みによって、人材育成の土壌づくり、各分会の考えや質疑を出しやすくし、中央委員会をより充実させるために行っていく。



今後の日程

6月7日(金) 第8回支部執行委員会
14日(金) 第8回支部中央委員会

8月2日(金) 第9回支部執行委員会
9日(金) 第9回中央委員会

10月5日(土)
第59回支部定期大会

7月5日(金) 2020年度予算ヒアリング

9月6日(金) 第10回支部執行委員会
13日(金) 第10回支部中央委員会